
根羽村立義務教育学校根羽学園 7 学年 – 自分たちが根羽村のためにできること

長野県の山間に位置する根羽村にある根羽学園 7 年生（中学 1 年相当）は、「根羽村をもっと元気にしたい」「持続可能な地域づくりに貢献したい」という思いから、自分たちのアイデアを形にするプロジェクトに取り組みました。これまでの地域学習やフィールドワークを土台に、村の課題を探り、それに対する解決策を自ら考案し、発信しています。

地域課題の分析とプロジェクト立案

児童たちはこれまでに、森林体験や地元テレビ局での番組制作、林業体験などを通して、地域の自然や人々と触れ合ってきました。そうした体験を踏まえて、村の人口減少、知名度不足、資源活用の課題を整理し、SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくり」などとの関連を明確にしながら、自分たちにできるアクションを構想しました。

多様なアイデアと地域資源の活用

児童たちは 5 つのグループに分かれ、それぞれ独自の発想で根羽村の魅力を引き出す企画を立案。たとえば、「鹿肉入りふりかけ」チームは、廃棄されがちな鹿肉や地元野菜を活用し、地産地消を通じた商品開発を提案。スイーツ班は、根羽ヨーグルトを用いたチーズケーキや、地元産素材を取り入れたクッキーの制作を構想しました。

また、SNS 発信を前提に「つたの滝」を整備し映えスポットとして活用するプラン、クロモジなどの森林資源を使ったヘアオイル・シャンプー開発の試み、地域材を使った鶏のブランド化プロジェクトなど、どれも根羽村の特性を生かした提案となっています。

未来への展望

それぞれのチームが課題と向き合いながら計画を立て、協力先との連携や実現可能性も考慮する中で、地域を思う気持ちと持続可能な未来への意識が育まれています。根羽学園 7 年生の児童たちは、これからも自分たちのアイデアを形にしながら、地域づくりに貢献していく決意を新たにしています。